

1 単元名 四角形と三角形の面積

2 単元の目標

- (1) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を計算による求め方で理解することができる。
(知識及び技能)
- (2) 図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形を基に、基本図形の面積の求め方を見だし説明するとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 三角形、平行四辺形、台形、ひし形の面積の求め方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に生かそうとしたりする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は、計算で求めることができることを理解している。	思①三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を求積可能な図形の面積の求め方を基に考え説明している。	態①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気付き、三角形、平行四辺形、台形、ひし形の面積を求めようとしている。
知②三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を、公式を用いて求めている。	思②見いだした求積方法や式の表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を見いだしている。	態②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編の第5学年の内容「B図形(3) 平面図形の面積」を受けて設定した。第3学年までは、長さや重さ、かさは適切な計器を用いて測定してきた。第4学年では、計器を使わずに辺の長さなどを用いて計算によって正方形や長方形の面積を求め、効率的・能率的な求め方として正方形や長方形の面積の公式を導いている。本単元では三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を、図形を構成する要素などに着目して、等積変形したり、倍積変形したり、分割したりするといった数学的な見方・考え方を働かせ、既習図形の面積の求め方に帰着して計算で求める。面積の求め方を見いだしたら、もとの図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるか振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めて公式を導きだす。平行四辺形や三角形では、底辺と高さの関係を理解し、同じ図形であればどこに底辺をとっても面積は変わらないことを確認する。単元の最後では、数学的な見

方・考え方を働かせることで、一般の四角形などの面積の求め方を考え、測定できるようにするといった発展的に考察する態度を養う。

(2) 児童観

算数の学習に関する調査（令和6年*月*日実施、第5学年*組*人）では、グループで話し合って学習することに好きと回答した児童が*人だった。また、自分の考えを友達に説明することが大切と回答した児童が*人、友達の説明を聞いて内容が比較的分かると回答した児童が*人だった。しかし、自分の考えを図や言葉、式を使って説明することが苦手と回答した児童は*人だった。苦手と回答した理由として「考えが思い浮かばないことが多い」、「自分の説明を読み返すとよく分からない文ができてしまう」、「答えが分かっても理由を説明できない」などがあつた。これらのことから、協働的に問題を解決していくことに対して肯定的に捉えている児童は多いが、反面、自分の考えを説明することに苦手意識をもっている児童も多いことが分かった。また、長方形と正方形、複合図形（L字型の平面図形）の求積方法を問う問題を調査した。長方形と正方形の求積問題では、全員が正しく立式することができた。複合図形（L字型の平面図形）の求積方法は、図や言葉、式を用いて説明できた児童は*人だった。誤答には、補助線の説明が書かれていなかったり、式の説明が書かれていなかったりする解答が見られた。着想については、長方形や正方形に帰着すれば面積を計算で求めることができると記述できた児童は*人だった。残りの児童は、図形を分けたり、補ったりして考えることは分かっているけれども、どうして面積が求められるようになっているのかは意識していなかったり、形式的な理解になっていたりとすることが分かった。これらのことから、着想を基に解決方法を見通すことができるようにすることや、図や言葉、式を用いて根拠を基にして説明できるようにすることが必要だと分かった。

(3) 指導観

本単元では、既習事項や経験を基に図形の求積方法を考え、見いだした過程を振り返り簡潔かつ的確な表現に高めて公式をつくりだしていくことが大切である。そこで、第1時の導入では既習した図形の面積に着目させ、正方形や長方形の面積は求めることができるが、それ以外の図形は求積したことがなく、求積の公式を知らないことを全体で共有し、平行四辺形や三角形、ひし形、台形の求積方法を考えていくきっかけづくりと、既習内容の確認をする。求積方法の見通しを考える場面では、着想を言語化する発問をし、着想と解決方法をセットで板書し可視化する。児童の思考や発想を丁寧に見取り言語化していくことで、見通しをもって自力解決に進めるようにする。比較検討をする場面では、最初にペアやグループで互いに自分の考えを説明する。次に、相談タイムを設定し、ワークシートを見せ合い、説明に対して疑問点を聞いたり、間違っている部分や不足している部分を指摘したりして評価をし合う。最後に、質問や指摘されたところは、必要に応じて修正を行い、解決過程を再構成することで、自分の考えをより洗練されたものにする。しかし、児童によっては自分の考えがまとまらず、行き詰まっているところで比較検討の場面に進んでしまう場合も考えられる。その場合は、できたところまで説明をして、分からなかったところは、自分から友達に質問をしてアドバイスをもらい、自分の考えを構成していくようにする。単元全体を通して、公式を導き出す過程では、既習の図形に帰着させた求積方法を一般化させたものとして面積の公式があるという意識がもてるようにしていきたい。また、既習の求積可能な図形に帰着して考える着想を基に解決方法を見通し、根拠を基に説明できるようにしていきたい。

5 単元の指導計画（12時間扱い） ○は指導に生かす評価、◎は記録に残す評価

[illegible]

	5 自力解決をする。 ・ワークシートに図や言葉、式を用いて自分の考えを書く。 6 比較検討をする。 ・グループで自分の考えを説明する。 ・相談タイムで、説明に対して疑問点を聞いたり、間違いや不足している部分を指摘したりして評価し合う。 ・質問や指摘されたところは、必要に応じて修正を行い、解決過程を再構成する。 7 全体で共有する。 ・平行四辺形のさまざまな面積の求め方を全体で発表したり、聞いたりする。 ・類似する考え方がないか見比べる。 ＜予想される児童の反応＞ ・分けている ・動かしている ・長方形にしている 8 まとめをする。 まとめ 平行四辺形の面積は、分けたり、動かしたりして長方形に形を変えれば求めることができる。 9 本時の振り返りをする。 ・振り返りシートに大切な考え方（着想）を書く。	○	思①：平行四辺形の面積を求めるために、求積可能な図形にして考えているかについて見取り、できていない児童にはデジタル教科書を使って、図形を分けたり、動かしたりする操作を一緒に行い、解決の糸口を見つけられるようにする。【ワークシート】 ・説明する側には、ワークシートを聞く人に見せながら、図や言葉、式を用いて根拠を基にして説明をするように全体に周知する。 ・説明することが難しい場合は、できたところまでの内容を説明すればよいことを伝え、質疑応答の時間は、説明した人が分からなかったところをグループの友達に質問してもよいとする。 ・聞く側には、説明した友達の考えで疑問点や不明点について質問をするように促す。 ・自分の考えを再構成するのが難しい場合は、同じグループの人に相談してよいとする。 ・類似する考え方がないか比較するように促し、考えを統合させていく。 ・類似している理由は、板書に残し、後で振り返ることができるようにする。 ・自分のワークシートや着想が可視化された板書を見ながら振り返りを書くように助言し、着想を言語化をして自覚できるようにする。
--	--	---	--

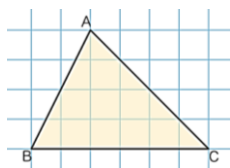
2	1 前時の振り返りをする。 2 課題を把握する。 課題 平行四辺形を分けたり、動かしたりせずに計算で面積を求める公式はつくれないだろうか。 3 見通しをもつ。 4 自力解決をする。 5 比較検討をする。 6 まとめをする。 まとめ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ 7 適用問題を解く。 8 本時の振り返りをする。	○	・前時で、平行四辺形の面積を求めるために多くの時間を費やしたことを確認し、本時の課題につなげる。 思②：平行四辺形の面積を求める公式を見いだせているかについて見取り、できていない児童には、平行四辺形を等積変形した長方形の面積を求めるときに必要となった辺の長さが、元の平行四辺形だとどの部分になっているのかという視点をもたせる。 【ノート】 知①：平行四辺形の面積は、底辺×高さで求めることが理解できているかについて見取り、理解できていない児童には、底辺と高さの位置関係について教科書の図でどの部分にあたるのかを一緒に再確認する。 【ノート】 ・平行四辺形の面積を求める公式を導き出すために必要な考え方について振り返りを書くように促す。
3	1 前時の振り返りをする。 2 問題を把握する。 問題 平行四辺形 ABCD で辺 BC を底辺としたとき、面積は何cm^2でしょう。		・前時で、平行四辺形の面積を底辺と高さを使って計算で求められるよさについて記述した振り返りをグッドモデルとして紹介する。

		3 課題を把握する。 課題 平行四辺形の高さはどこに決めたらよいだろう。 4 見通しをもつ。 5 自力解決をする。 6 比較検討をする。 7 まとめをする。 まとめ 平行四辺形の高さは、底辺を伸ばした直線と、底辺と向かい合った辺を伸ばした直線のはばと考えればよい。 8 適用問題を解く。 9 本時の振り返りをする。		・本時に扱う平行四辺形では、前時までの平行四辺形と比べ、高さが図形の中にない場合であることを明確にし、課題意識をもって取り組むことができるようにする。 ○ 態②：平行四辺形の高さを見つけようとしているかを見取り、つまづいている児童には、平行四辺形の高さがどこからどこまでを指すのかという視点で前時の学習を振り返るように声をかける。 【観察】 ・形が異なる三角形でも、底辺と高さが等しければ面積は等しくなることを、デジタル教科書を使って視覚的に確認をする。 ○ 知②：平行四辺形の面積を、公式を用いて求めているかについて見取り、できていない児童には、平行四辺形の公式と、底辺と高さの位置関係を確認する。 【観察、ノート】 ・平行四辺形の高さが図形の外にある場合を考えるときに、どんな考え方が大切だったか振り返りを書くように促す。
2	4	目標：長方形や正方形、平行四辺形を基に三角形の面積を求めることができる。 1 第1時の振り返りをする。 ・振り返りシートの内容を確認し、教師から紹介される振り返りのグッドモデルを聞く。		・第1時で、平行四辺形の面積は、分けたり、補ったりして求積できる図形にすることが大切だと考えた振り返りをグッドモデルとして紹介する。 ・振り返りシートは、いつ見返してもよいことを全体に周知し、本時の見通しの場面で、手助けアイテムとして活用できるようにする。

2 問題を把握する。

問題

この三角形の面積は何 cm^2 でしょう。



3 課題を把握する。

課題

どうすれば三角形の面積を求めることができるだろう。

4 見通しをもつ。

- ・方法の見通しをワークシートに書く。

＜予想される児童の反応＞

- ・分ける、動かす、補う。
- ・長方形、正方形、平行四辺形にして考える。
- ・方法に対する着想を書く。

＜予想される児童の反応＞

- ・平行四辺形の面積を考えるとときにも分けたり、動かしたりしたら、面積を求めることができたから。
- ・平行四辺形を半分にすると三角形になるから。

5 自力解決をする。

- ・ワークシートに図、言葉、式を用いて自分の考えを書く。
- ・平行四辺形の面積の求め方を説明するとき、どんなところを指摘されたかをワークシートを見て振り返る。

6 比較検討をする。

- ・グループで自分の考えを説明する。
- ・説明後に質疑応答の時間を取り入れ、必要に応じて補助説明をする。
- ・自分の説明で不足していたところを修正し、解決過程を再構成する。

○

- ・着想に書く内容のイメージをもつことができるようになった児童は、ワークシートに方法が書けたら、各自着想を書く流れにする。
- ・全体では、方法を確認してから、方法に対する着想を考える時間を設定する。
- ・見通しが書けていない児童には、振り返りシートの平行四辺形の内容の部分の確認するように声をかける。

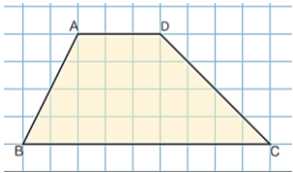
思①：三角形の面積を長方形や平行四辺形にして求めようと記述しているかについて見取り、できていない児童には、平行四辺形の面積をどのように求めたかワークシートを振り返ったり、見通しの場面で板書した内容を見返したりするように声をかける。

【観察、ワークシート】

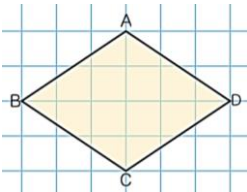
- ・説明する側には、ワークシートを聞く人に見せながら、図や言葉、式を用いて根拠を基にして説明をするように全体に周知する。
- ・説明することが難しい場合は、できたところまでの内容を説明すればよいことを伝え、質疑応答の時間は、

				説明した人が分からなかったところをグループの友達に質問してもよいとする。 ・聞く側には、説明した友達の考えで疑問点や不明点について質問をするように促す。 ・自分の考えを再構成するのが難しい場合は、同じグループの人に相談してよいとする。 ・類似している理由は、板書に残して後で振り返ることができるようにする。 ・平行四辺形のときには出てこなかった倍積変形の考え方を新たな考え方として確認する。
	7 全体で共有する。 ・三角形のさまざまな面積の求め方を全体で発表したり、聞いたりする。 ・類似する考え方がないか見比べる。 ＜予想される児童の反応＞ ・四角形にしている。 ・補っている。 8 まとめをする。 まとめ 三角形の面積は、面積の求め方が分かる長方形や平行四辺形に形を変えれば求めることができる。 9 本時の振り返りをする。 ・第1時（平行四辺形の求積）のときと比べて、自分の説明がどうだったかということと、今日の学習で大切な考え方（着想）について文章で書く。			○ 態①：長方形や平行四辺形に帰着すると三角形の面積を求めることができるよさに気付いているかについて見取り、気付いていない児童には、どうして三角形の面積を求めることができたのか、その過程をワークシートや板書で振り返るように声をかける。 【観察、振り返りシート】
5	1 前時の振り返りをする。 2 課題を把握する。 課題 三角形の面積を分けたり、補ったりしないで、計算で求める公式はつくれないだろうか。 3 見通しをもつ。			・三角形の面積の求め方は、平行四辺形のときと同じように考えればよいと記述した振り返りをグッドモデルとして紹介する。 ・前時で三角形の面積を求めるときに多くの時間を費やしたことを全体で共有し、課題意識をもたせる。

	4 自力解決をする。 5 比較検討をする。		○	思②：三角形の求積公式を見いだしているかについて見取り、できていない児童には、三角形を平行四辺形に倍積変形した考え方を基に、面積を求める計算式を立ててみるように提案する。 【観察、ノート】
	6 まとめをする。 まとめ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2 7 適用問題を解く。		○	知①：三角形の面積を計算で求めることができるか見取り、できていない児童には、三角形の面積の公式と、底辺と高さの位置関係を確認する。 【観察、ノート】 ・三角形の面積を求める公式を見つげるときに、どんな考え方が大切だったか振り返るように促す。
6	1 第3時の振り返りをする。 2 問題を把握する。 問題 三角形 ABC で辺 BC を底辺としたときの、面積は何cm^2でしょう。 3 課題を把握する。 課題 三角形の高さは、どこに決めたらよいだろう。 4 見通しをもつ。 5 自力解決をする。			・第3時で、平行四辺形の高さは、底辺と向かい合った辺のはばと考えればよいことを記述した振り返りをグッドモデルとして紹介する。 ○ 態②：三角形の求積公式を振り返り、三角形の高さを見つけようとしているかを見取り、つまづいている児童には、平行四辺形の高さが図形の外にあったときに、どのように考えたかを振り返るように声をかける。

		6 比較検討をする。 7 まとめをする。 まとめ 三角形の高さは、底辺と向かい合った頂点を通り、底辺に平行な直線のはばと考えることができる。 8 適用問題を解く。			【観察、ノート】
		9 本時の振り返りをする。	○		知②：公式を用いて三角形の面積を求めているか見取り、できていない児童には、三角形の公式を確認し、底辺は必ず図形の下辺とは限らないことを助言する。 【ノート】 三角形の高さが図形の外にある場合に、どのように考えることが大切だったか振り返るように促す。
3	7	目標：長方形や正方形、平行四辺形、三角形を基に台形の面積を求めることができる。 1 第1、4時の振り返りをする。 振り返りシートの内容を確認し、教師から紹介される振り返りのグッドモデルを聞く。 2 問題を把握する。 問題 この台形の面積は何cm^2でしょう。  3 課題を把握する。 課題 どうすれば台形の面積を求めることができるだろう。			- 第1、4時で、平行四辺形や三角形の面積は、分けたり、補ったりして求積できる図形にすることが大切だと考えた振り返りをグッドモデルとして紹介する。 - 振り返りシートは、いつ見返してもよいことを全体に周知し、本時の見通しの場面で、手助けアイテムとして活用することができるようにする。 - 方眼紙上に書かれた台形を示し、平行四辺形や三角形の面積の求め方を考えたときと同様に考えればよいことを、自分の着想として導き出すことができるようにする。

	7 全体で共有する。 ・台形のさまざまな面積の求め方を全体で発表したり、聞いたりする。 ・類似する考え方がないか見比べる。 ＜予想される児童の反応＞ ・長方形や平行四辺形にしている。 ・2つや3つに図形を分けている。 8 まとめをする。 まとめ 台形的面積は、分けたり、動かしたり、補ったりして、長方形や平行四辺形、三角形にして考えれば求めることができる。 9 本時の振り返りをする。 ・第4時（三角形の求積）のときと比べて、自分の説明がどうだったかということと、今日の学習で大切な考え方（着想）について文章で書く。		疑問点や不明点について質問をするように促す。 ・自分の考えを再構成するのが難しい場合は、同じグループの人に相談してよいとする。 ・類似している理由は、板書に残して後で振り返ることができるようにする。 ・台形を倍積変形し、平行四辺形にして面積を求める考え方は、三角形の面積を求めるときに出てきた考え方と同等であることを確認する。 ・台形的面積を求めるときに、どんな考え方が大切だったか振り返るように促す。
8	1 第2、5時の振り返りをする。 ・振り返りシートの内容を確認する。 ・平行四辺形や三角形の求積公式の導き方を振り返る。 2 課題を把握する。 課題 台形的面積を求める公式をつくりましょう。 3 見通しをもつ。 4 自力解決をする。 5 比較検討をする。 6 まとめをする。 まとめ 台形的面積＝（上底＋下底）×高さ÷	◎	・第2、5時で平行四辺形や三角形の求積公式を導いたときに、元の図形と求積できる形に変形した図形を見比べて考えたことを全体で共有し、振り返る。 ・前時で台形的面積を求めるときに多くの時間を費やしたことを全体で共有し、課題意識をもたせる。 ・前時で児童が考えた台形の求積方法を使って公式を考えていくが、扱うものは公式を導きやすいものに限定する。 思②：【ノート】

	2 7 適用問題を解く。 8 本時の振り返りをする。	○	知②：公式を用いて台形の面積を求めることができるか見取り、できていない児童には、台形の上底、下底、高さの位置がどこなのか確認するように声をかける。 【観察、ノート】 ・台形の面積を求める公式を見つけるときに、どんな考え方が大切だったか振り返るように促す。
	9 目標：長方形や正方形、平行四辺形、三角形を基にひし形の面積を求めることができる。 1 第1、4、7時の振り返りをする。 ・振り返りシートの内容を確認し、教師から紹介される振り返りのグッドモデルを聞く。 2 問題を把握する。 問題 このひし形の面積は何cm^2でしょう。  3 課題を把握する。 課題 どうすればひし形の面積を求めることができるだろう。 4 見通しをもつ。 ・着想を基に解決方法をワークシートに書く。 <予想される児童の反応> ・分ける、動かす、補う。 ・長方形、正方形、三角形にする。 ・方法に対する着想を書く。		・第1、4、7時で平行四辺形や三角形、台形の面積は既習の図形に帰着して考えれば求めることができると記述した振り返りをグッドモデルとして紹介する。 ・振り返りシートは、いつ見返してもよいことを全体に周知し、本時の見通しの場面で、手助けアイテムとして活用できるようにする。 ・方眼紙上に書かれたひし形を示し、平行四辺形や三角形、台形の面積の求め方を考えたときと同様に考えればよいことを、自分の着想として導き出すことができるようにする。 ・方法と着想のどちらも各自で考えるようにし、ある程度見通しがたったら、ペアで確認し合う。 ・これまでに求めてきた図形についてどのように面積を求めてきたか振り返るように声をかける。

	<予想される児童の反応> ・長方形や正方形、三角形なら面積を求めることができるから。 ・ひし形も四角形だから平行四辺形や台形と同じ考え方で求めることができると思ったから。 5 自力解決をする。 ・ワークシートに図、式、言葉を用いて自分の考えを書く。 ・平行四辺形や三角形、台形の面積の求め方を説明するときに、どんなところを指摘されたかをこれまでのワークシートを見て、振り返る。 6 比較検討をする。 ・ペアで自分の考えを説明する。 ・互いのワークシートを確認して指摘し合い、必要に応じて修正をし、解決過程を再構成する。 ・グループで自分の考えを説明する。 ・説明後に質疑応答の時間を取り入れ、必要に応じて補助説明をする。 ・自分の説明で不足していたところを修正し、解決過程を再構成する。				・第7時と同様に、本時ではグループで比較検討をする前に、ペア活動を取り入れて検討させ、一人一人の説明する力をより高めることができるようにする。 ○ 思①：ひし形の面積を求積可能な図形の面積の求め方を基に考え、記述しているか見取り、できていない児童には、三角形に分けて考えてみることを助言する。 【観察、ワークシート】 ・説明する側には、ワークシートを聞く人に見せながら、図や言葉、式を使って伝わる説明をするように全体に周知する。 ・説明することが難しい場合は、できたところまでの内容を説明すればよいことを伝え、質疑応答の時間は、説明した人が分からなかったところをグループの友達に質問してもよいこととする。 ・聞く側には、説明した友達の考えで疑問点や不明点について質問をするように促す。 ・自分の考えを再構成するのが難しい場合は、同じグループの人に相談してもよいこととする。
--	--	--	--	--	---

		7 全体で共有する。 ・ひし形のさまざまな面積の求め方を全体で発表したり、聞いたりする。 ・類似する考え方がないか見比べる。 ＜予想される児童の反応＞ ・三角形に分けている。 ・長方形を基に考えている。 8 まとめをする。 まとめ ひし形の面積は、三角形に分けたり、長方形を基にして考えたりすると求めることができる。 9 本時の振り返りをする。 ・第7時（台形の求積）のときと比べて、自分の説明がどうだったかということと、今日の学習で大切な考え方（着想）について文章で書く。		・類似している理由は、板書に残して後で振り返られるようにする。 ◎ 態②：【振り返りシート】
10	1 第2、5、8時の振り返りをする。 2 課題を把握する。 課題 ひし形の面積を求める公式をつくりましょう。 3 見通しをもつ。 4 自力解決をする。 5 比較検討をする。 6 まとめをする。 まとめ ひし形の面積＝一方の対角線×もう一方の対角線÷2 7 適用問題を解く。 8 本時の振り返りをする。		・第2、5、8時で平行四辺形や三角形、台形の求積公式を導いたとき、元の図形と求積できる形に変形した図形を見比べて考えたことを全体で共有し、振り返る。 ・ひし形のどこの長さが分かれば求積することができるかを発問し、どの考え方も対角線を用いていることを全体で確認して公式につなげる。 知②：【ノート】 ・たこ形もひし形の求積公式で求められることを全体で確認する。 ・台形の面積を求める公式を見つけるときに、どんな考え方が大切だったか振り返るように促す。	
4	11	1 前時の振り返りをする。		・ひし形もたこ形も同様の公式で面積

		2 問題を把握する。 問題 三角形の底辺の長さを 4 cm と決めて、高さを 1 cm、2 cm、3 cm、…と変えていきます。それにともなって、面積はどのように変わるでしょう。 3 課題を把握する。 課題 底辺の長さが決まっている三角形では、面積と高さにどのような関係があるでしょう。 4 見通しをもつ。 5 自力解決をする。 6 比較検討をする。 7 まとめをする。 まとめ 底辺の長さが決まっているとき、高さが 2 倍、3 倍、…になると、それにともなって面積も 2 倍、3 倍、…になるので、面積は高さに比例する。 8 本時の振り返りをする。			を求めることができる旨の記述をしている振り返りをグッドモデルとして紹介する。 - デジタル教科書を使って、図形の変化を動画で見せ、問題のイメージをもたせる。 - 高さが高くなれば、面積は大きくなるというイメージをもたせ、自力解決につなげる。 知②：三角形の求積公式を用いて、面積が高さに比例していることを理解できているかを見取り、できていない児童には、三角形の面積の公式を確認し、高さとの面積の対応表を用いて、変化の様子を可視化することで面積と高さの関係を見つけやすくする。 【観察、ノート】 - 三角形の底辺の長さを一定にしたときの、高さとの面積の関係を調べるときに、どんな考え方が大切だったのか振り返るように促す。
5	12	問題 たしかめ問題に取り組もう。 - 教科書 p61～p62 の問題に取り組む。 - 評価問題に取り組む。 - 本単元の振り返りをする。	◎	◎	知①②：【ノート】 思①②：【評価問題】 ◎ 態①②：【観察、振り返りシート】

